

## 小型飛翔体による海象観測

### － データの即時性はどこまで保証できるか －

Ocean observations from small flying objects; on real-time data acquisition

広大な海洋・海上気象を観測するには、上空からの俯瞰の視点を持つことが重要である。近年の小型飛翔体技術の発達により、特定の宇宙機関でなくても、研究者・企業といったレベルでも上空からの視点を持てるようになってきた。この研究集会では、海洋研究の専門家と、ゾンデ・バルーン・ドローン・超小型衛星などの小型飛翔体の専門家が一堂に会することで、プラットフォームごとの観測特性（分解能・観測頻度・観測範囲・観測期間）と、現象の時空間スケールなどの要求量をマッチングさせ、今後どのような方向性の開発・研究をすることでニーズとシーズが一致するかを模索するものである。

2015 年度に九州大学で開催した、サマーセミナー「海と宙（そら）の間から」(\*1)では、①ドローンなどの陸上発進の小型飛翔体は、機動性のある集中観測が可能である。②超小型衛星は、個数を増やせば観測頻度の高いモニタリング観測が可能となるといった特徴があり、即時性の高い観測に有利であることが示された。しかし、①は現場までの移動手段や許可申請に時間を要する可能性があり、一方②には陸上へのダウンリンクの制約のために時間遅れが生じる可能性がある。これらの点をふまえ、今回はデータ取得の即時性について、様々なニーズがどこまで即時性を要求しているかをふまえて講演と議論を行う。

注\*1: [http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/research/2015/summer\\_seminar/index.html](http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/research/2015/summer_seminar/index.html)

○日時：平成 28 年（2016 年）8 月 25 日（木）13:30～17:00 及び 8 月 26 日（金）09:30～12:30

○場所：名古屋大学 研究所共同館 I 3F 301 講義室

住所：〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町

(アクセス: <http://www.isee.nagoya-u.ac.jp/access.html> 学内: <http://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/>)

○参加費：無料

○アジェンダ(敬称略)

➤ 1 日目：8 月 25 日（木）13:30～17:00

・はじめに（名古屋大学 石坂丞二）13:30～13:45

・趣旨説明（九州大学 市川香）13:45～14:00

・招待講演 1（東京大学 青柳賢英）「ほどよし衛星の成果とその将来展望」14:00～14:50

【休息】14:50～15:10

・招待講演 2（佐賀大学 藤井直紀）「ドローンによる海洋生物観測」15:10～16:00

・招待講演 3（福岡工業大学 中川智治）「国際法の観点から海象現況把握への期待」16:00～16:50

・初日のまとめと二日目の予定（九州大学 市川香）16:50～17:00

➤ 2日目：8月26日（金）09:30～12:30

・講演とパネルディスカッション 09:30～12:15

司会：九州大学 市川香

パネリスト：

名古屋大学 石坂丞二 （生物・漁業）

東京大学 青柳賢英 （超小型衛星）

佐賀大学 藤井直紀 （海洋生物）

福岡工業大学 中川智治 （国際法）

東京海洋大学 庄司るり （海運）

九州大学 東野伸一郎 （小型飛翔体）

他

・まとめ（九州大学 市川香）：12:15～12:30

世話人：市川香(九大), 石坂丞二(名大), 富田裕之(名大), 北澤幸人 (IHI/九工大)

(問合せ先：北澤 [kitazawa@planeta.sci.isas.jaxa.jp](mailto:kitazawa@planeta.sci.isas.jaxa.jp))